

令和3年度
推薦入試

【 人間学群 心理学類 】

区 分	出題意図・正解例
「小論文」問題	<p>1. 問題文の選定・出題理由</p> <p>問題文（英文）は、2009年に発表された de Ayala, R. J.による“The theory and practice of item response theory”の第1章“Introduction to measurement”から一部を抜粋・改変したものである。問題文では、人間の心を研究するうえで欠かすことのできない潜在変数の測定を取り上げ、「測定とは何か」について、教育測定学を専門としない読者を想定して平易に解説されている。測定や統計に関する多くの教科書では、測定を「規則に従った対象や事象への数字の割り当て」と定義しているが、本論文では、測定を「規則に従って数値を割り当てる以上のものである」と考え、そのプロセスについて、不安を測定する場面を例として用い、丁寧に解説されている。このような点で、心理学に関心をもつ受験生にとって内容的にも有益な題材であり、英文の難易度も適切であると判断し、選定した。</p> <p>問1は、下線部①を日本語に適切に訳すことができるかどうかを問う問題である。下線部①には、測定の古典的な定義が示されており、適切な訳出のためには、それ以降の問題文で述べられている著者の考える測定を理解し、対比させることが必要になる。</p> <p>問2は、下線部②が意味する内容を本文中で述べられている具体例を用いて適切に説明できるかどうかを問う問題である。その内容は、第2、第3段落にそれぞれ記述されているので、それらを理解した上で、制限字数内で要約することが求められる。</p> <p>問3は、下線部③に示された内容、第4段落の内容を理解したうえで、本文で例として取り上げられているものとは異なる「幸せ」という構成概念の測定方法について、自分の考え方を適切に述べることができるかどうかを問う問題である。下線部③や第4段落では、直接観測することのできない潜在変数をどのように測定すれば良いのか、全般性不安を測定する例を使い、丁寧に解説されている。その内容を理解したうえで、自分の体験や知識に基づき、「幸せ」を測定する方法について適切に論述できるかどうか問われる。</p> <p>問1 下線部①を日本語に訳しなさい。</p>

<解答例>

古典的な定義では、測定とは、「規則に従った対象や事象への数字の割り当てであり、異なる規則の下で数値を割り当てることができるという事実は異なる種類の尺度と異なる種類の測定へとつながる」ものである。
(97字)

問2 本文中で示されている例を用いて、下線部②が意味することを、150字以内で具体的に説明しなさい。

<解答例>

不安のような直接観測することが不可能な変数、構成概念を測定する際には、カテゴリカルな変数として概念化されるべきか、連続変数として概念化されるべきか、あるいはその両方を含むものとして概念化されるべきかを決定する必要がある。そして、不安をどのように概念化するかにより、最終的に得られる結果が異なる。
(147字)

問3 下線部③に関連して、人間の「幸せ」の測り方を2つ考えなさい。そして、それらの測り方について、なぜそれらの方法で「幸せ」が測れるかを説明しつつ、600字以内で説明しなさい。

<解答例>

人間の「幸せ」の測り方としては、その人の年収について調べる方法と、その人が「自分がどの程度幸せだと思っているのか」を質問紙等により尋ねる方法の、2通りの方法が考えられる。まず、年収が多い人ほど、そうでない人に比べて、自分で自由に利用できるお金が多くなると考えられる。そして、自分で利用できるお金が多い場合には、自分が食べたい

ものを食べたいときに食べられる、欲しいものを買いたいときに買えるなど、自分のやりたいこと我慢することなく実行できると考えられる。したがって、これらのことから、年収の多い人ほど、自分の欲求を満たすことができ、幸福であると考えられるため、人間の幸せはその人の年収を調べることにより測ることができると考えられる。一方で、「幸せ」というのは、欲求が充足された結果生まれる感情としてではなく、「自分は幸せである」と自分が考える程度として考えることもできる。自由に使えるお金が少なくても幸せな人はたくさんいる。だとすると、その人が「自分がどの程度幸せだと思っているのか」を質問紙等により尋ねることによって、人間の幸せを測ることができると考えられる。
(481字)